

医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議

オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤 の事例調査について

(公社) 日本薬剤師会 常務理事 岩月 進

本日本話したいこと

1. オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤
の事例調査について
2. 緊急避妊薬を適切に提供するために

1.オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤の事例調査について

オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤については、令和2年2月より順次研修会が開催され、約1万名の薬剤師が研修を修了し、薬局における体制整備を進めているところである。

※厚生労働省の名簿掲載者数：10,099名（令和3年12月末時点）

一方、調剤の事例としては、極めて限られているものと推察され、実際現場でどのような事例があったのか、それに対してどのように対応したのかは明らかではなかった。

1.オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤の事例調査について

また、今般、研修修了者名簿（以下、名簿）に掲載がある薬局において、緊急避妊薬が在庫されていないなど、名簿と実際の対応状況に乖離があるとの指摘があった。

これらの背景を踏まえ、本会では、オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する実態を確認し、改善策を検討するため、事例調査を行った。

調査概要

- 調査対象：「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修」修了者の在籍する薬局
※対象は本会が抽出した一部の都道府県（7都府県）
※令和3年7月末時点の厚生労働省公表の名簿に掲載がある薬局に調査票を配付。配付数：1,395軒
- 調査期間：令和3年12月27日～令和4年1月28日
- 有効回答数：823件（同一薬局からの重複回答、研修修了者が不在の薬局からの回答は無効とした）

オンライン診療に伴う調剤の実績

＜回答の対象期間：令和2年2月～令和3年10月末＞

○調剤事例の有無

回答	回答数 (n=823)
あった	11
なかった	812

調剤事例のあった薬局 (n=11) のうち、
対象期間中の合計事例件数：
1件が9軒、3件が1軒、0件が1軒

○対応した時間帯

回答	回答数 (n=11)
開局時間内	9
開局時間外	1
どちらもあった	1

開局時間外に対応した事例 (n=2) のうち、
早朝・夜間 (19時～翌8時) の対応が
あった薬局：1軒

○疑義照会等を行った事例

回答	回答数 (n=11)
あった	1
なかった	10

疑義照会の内容：本人以外が来局

オンライン診療に伴う調剤の実績

＜回答の対象期間：令和２年２月～令和３年10月末＞

○お薬情報提供文書を用いた
情報提供（参考資料：様式３）

回答	回答数（n=11）
した	10
していない	1

○ワンストップ支援センター・
警察等に相談・紹介した事例

回答	回答数（n=11）
あった	0
なかった	11

○対応するにあたり困ったこと

- ・ 休日に問い合わせがあり、休日診療をしている医療機関に処方していただけないか問い合わせたが全て断られてしまった。
- ・ 処方箋を受け取った後、念のため医療機関に折り返しの電話をしたところ、昼休みで電話がつながらなかった。
- ・ 本人が来局しなかったため、何も情報が得られなかった。

オンライン診療に伴う調剤に関する体制整備

○緊急避妊薬の在庫

回答	回答数 (n=823)
している	501
していない	231
近隣の連携し速やかに対応ができる薬局とよう準備している	91

○飲料水・紙コップの準備

回答	回答数 (n=823)
している	806
していない	17

○地域の産婦人科の連絡先の把握

回答	回答数 (n=823)
している	663
していない	160

○プライバシーを確保できる体制の整備

回答	回答数 (n=823)
している	789
していない	33
未回答	1

○地域のワンストップ支援センターの連絡先の把握

回答	回答数 (n=823)
している	319
していない	504

対面診療に伴う調剤の実績

＜回答の対象期間：令和2年2月～令和3年10月末＞

○調剤事例の有無

回答	回答数 (n=823)
あった	35
なかった	788

調剤事例のあった薬局 (n=35) のうち、
対象期間中の合計事例件数：
1件が23軒、2～10件が6軒、27件が
1軒、58件が1軒、61件が1軒、73件
が1軒、123件が1軒、0件が1軒

○対応した時間帯

回答	回答数 (n=35)
開局時間内	30
開局時間外	3
どちらもあった	2

開局時間外に対応した事例 (n=5) のうち、
早朝・夜間 (19時～翌8時) の対応が
あった薬局：3軒

○対応者

回答	回答数 (n=35)
研修を修了した薬剤師	23
その他の薬剤師	6
どちらもあった	6

対面診療に伴う調剤の実績

＜回答の対象期間：令和2年2月～令和3年10月末＞

○疑義照会等を行った事例

回答	回答数（n=35）
あった	2
なかった	33

○ワンストップ支援センター・ 警察等に相談・紹介した事例

回答	回答数（n=35）
あった	1
なかった	34

○患者に必要な情報提供

回答	回答数（n=35）
した	35
していない	0

○一錠のみの処方・調剤か

回答	回答数（n=35）
一錠のみ	35
一錠ではなかった	0
どちらもあった	0

その他の調査結果

○00410対応（電話等服薬指導）による調剤事例の有無

＜回答の対象期間：令和2年4月～令和3年10月末＞

回答	回答数（n=823）
あった	0
なかった	823

○薬局に直接緊急避妊薬を購入に来た事例の有無

＜回答の対象期間：令和2年2月～令和3年10月末＞

回答	回答数（n=823）
あった	33
なかった	790

直接購入に来た事例への対応、
対面の受診を勧めた：28軒
オンラインの受診を勧めた：5軒

○処方箋なしでの緊急避妊薬の提供への不安の有無

回答	回答数（n=823）
ある	422
ない	401

調査結果から導かれる結果

限られた調剤実績ではあるが、調査の結果から、

- ✓ 緊急避妊薬を必要とする方がオンラインで受診し薬局に来局することで、薬局では対面で必要な情報が確実に提供され、適切に緊急避妊薬を服用することができていた。
- ✓ 約 3 週間後の産婦人科への受診勧奨や面前服用など、「オンライン診療の適切な実施に関する指針」を遵守し、適切に医薬品供給が果たせていた。
- ✓ 更に、中にはワンストップ支援センター等に紹介した事例があり、薬剤師が関与することの意義が確認できた。

調査から見た課題とその対応

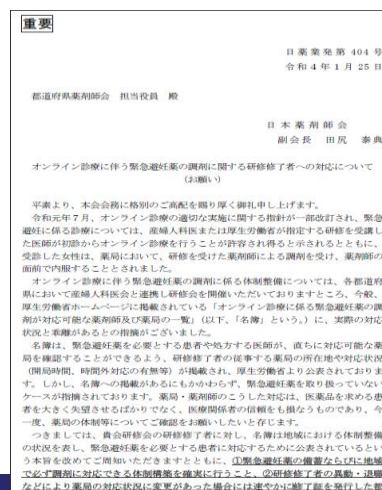
<課題>

名簿と実際の対応状況との乖離について、研修修了者の異動や休職や退職、緊急避妊薬の期限が切れた後に在庫をしていない等、情報に変更があったにもかかわらず、更新されていない事例があることが分かった。

<対応>

本会では、研修の実施主体である都道府県薬剤師会に対し、研修修了者へ以下を周知することを依頼。

- ①緊急避妊薬の備蓄ならびに地域で必ず調剤に対応できる体制構築を確実に行うこと
- ②薬局の対応状況に変更があった場合には速やかに修了証を発行した都道府県薬剤師会に連絡し名簿の修正を行うこと



調査から見た課題とその対応

<課題>

地域のワンストップ支援センターの連絡先については、調査に回答した薬局の半数以上が「把握していない」という結果だった。

<対応>

研修修了者に対し、地域のワンストップ支援センターと連携することの再周知と共に、発信場所から最寄りの支援センターにつながる全国共通短縮番号（#8891）の周知を図るよう進めていく。

2. 緊急避妊薬を適切に提供するために

- 調査結果から、現状、薬局の体制整備に係る課題もあったものの、研修を修了した薬剤師が薬学的知見に基づき、使用者の状況に応じて適切に対応することで、安全を担保した上で必要な医薬品を提供していることが確認できた。

2. 緊急避妊薬を適切に提供するために

- 使用者の安全を守るためには、使用者の気持ちに寄り添いながら、確実な情報提供・適切な情報共有や、地域の産婦人科医やワンストップ支援センター等と連携を行うことが極めて重要である。
- 引き続き、研修を修了した薬剤師が薬学的知見に基づき、使用者のプライバシーを確保しつつ、適切かつ責任をもって必要な医薬品の提供に関与することが不可欠と考える。

2. 緊急避妊薬を適切に提供するために

- 今後の検討にあたっても、緊急避妊薬を必要とする方のアクセスを改善し、利便性だけでなく、安全に安心して使用することを実現するために、薬剤師が必ず関与する販売方法の検討を進めていくことが必要。
- 薬剤師会は、引き続き使用者の安全安心を守るための体制整備に積極的に取り組んでいく。

参考資料

オンライン診療における緊急避妊薬の調剤で 用いる関連文書 抜粋

様式 1

緊急避妊薬に関する情報提供書（医師→薬局薬剤師）

年 月 日

情報提供先
薬局名： _____ FAX 番号： _____

患者氏名： _____ 生年月日： _____ 年 月 日（ 歳）
電話番号： _____ 受診日時： _____ 年 月 日

【服用にあたっての確認事項】

☐ 禁忌（重篤な肝障害、妊婦等）に該当していない。

☐ 併用薬の服用を確認した。

（☐ 服用していない または ☐ 服用しているが問題ない）

☐ 授乳中か確認した。

（☐ 授乳中ではない または ☐ 授乳中だったため指導した）

☐ 性暴力被害の可能性（☐あり ☐なし ☐不明）
「あり」の場合 薬局への指示・コメント _____

☐ その他留意すべき事項 _____

薬剤を服用する期限
（性交後 72 時間以内） _____ 月 日 AM・PM _____ 時頃まで

患者来局予定時間 _____ 月 日 AM・PM _____ 時頃

医療機関名： _____ 診療科名： _____

医師氏名： _____

所在地： _____

電話番号： _____
（※患者来局予定時間前後に連絡できる連絡先）

FAX 番号： _____

※ 伝送時、処方箋とともに送付すること

様式 1 情報提供書
（医師→薬剤師）

様式 3

お薬情報提供文書（オンライン診療）

〇〇 〇〇様

処方日： _____ 年 月 日 緊急避妊用女性ホルモン剤
☐ ノルレボ錠 1.5mg
☐ レボノルゲストレル錠 1.5mg 「F」

医療機関名： _____
医師氏名： _____
電話番号： _____ 服用日時： _____ 年 月 日
AM・PM _____ 時 分

服用前の注意

☐ 次に該当する方は、この薬を服用することができません。（重篤な肝障害のある方、妊婦）

服用後の注意

☐ 一時的ですが気持ちが悪くなったり、吐いたりする場合があります。この薬を服用後 2 時間以内に吐いてしまった場合は、追加服用の必要があるかもしれないので、すぐに処方してもらった医師に相談してください。

☐ 頭痛、めまい、腹痛、倦怠感、眠くなるなどの症状があらわれることがあります。

☐ 月経のような出血や不正子宮出血があらわれることがあります。

☐ 月経周期や出血の状況（日数や量）に一時的な変化が見られることがあります。

☐ セイヨウオトギリソウ（セントジョーンズ・ワート）含有のサプリメントやハーブの摂取はしないように気をつけてください。

☐ この薬を服用しても、性感染症の予防にはなりません。心配な場合は医師に相談してください。

☐ この薬を服用しても、完全に妊娠が回避できるものではなく、妊娠・異常妊娠となる場合もあります。

☐ この薬の服用後も無防備な性交が行われた場合、妊娠する可能性が高まるので、妊娠を避けたいというのであれば、適切な避妊を行ってください。自分に合った避妊法については、医師または薬剤師に相談してください。

（授乳中の方のみ）

☐ この薬の成分は乳汁中に移行しますので、授乳中の方は、服用後少なくとも 24 時間は授乳しないでください。

この薬が本当に効いたかどうかは、服用後すぐにわかるわけではありません。
約 3 週間後に必ず産婦人科に受診して医師の診察を受けてください。
その際には、この【お薬情報提供文書】を持参してください。

年 月 日

薬局名： _____
薬剤師氏名： _____
所在地： _____
電話番号： _____

「緊急避妊の対面診療が可能な
産婦人科医療機関等の一覧」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000186912_00002.html
（厚生労働省ホームページ）

様式 3 お薬情報提供文書